

WINDOW

▼ 高知県人会事務所 (パラグアイ)



▼ 在亜高知県人会の新年会 (アルゼンチン)



▲ 土佐祭り (ブラジル)



▲ イグアスの滝 (アルゼンチン側)

2016
Autumn
No.65

特集 南米高知県人会からのメッセージ

- 2016ジュニア国際大学を開催しました
- 当協会の語学ボランティアが災害応援のため熊本に向かいました
- 高知商業高校ラオス学校建設活動
- 新旧高知県国際交流員からのあいさつ
- INFORMATION BOARD
 - 異文化理解講座開催
 - 海外技術研修員・協力交流研修員のご紹介
 - 今年も「国際ふれあい広場」を開催します!

2016ジュニア 国際大学を 開催しました

今年も小学4年生から6年生を対象にした国際理解を深めるイベントを6月25日(土)に開催し、25名の小学生(4年生12名、5年生4名、6年生9名)が参加しました。



県立高知青少年の家(いの町)

がんばれ!! ネパール

午前、中土佐町立久礼小学校教諭の坂本和恵先生(「国際理解の風を創る会」所属)から「がんばれ!!ネパール～大地震から見てくるもの」というテーマで授業が行われました。ネパールの「Yes Noクイズ」に挑戦したり、先生が現地で買い入れた香辛料(マサラ)の匂いを嗅いだり、民族衣装に触れたり、ティカ(米粒大のシール)をおでこに付けてもらったりしてネパールを五感で楽しみました。また、昨年4月に発生

した大地震後の現地の様子についてのお話もあり、日本に対して、「困っている時いつも助けてくれてありがとう」、「地震大国でもある日本の技術を教えてほしい」、などのメッセージを現地の住民から頂いたそうです。



坂本先生にティカを付けてもらっている

世界の遊びを体験

午後はまず、世界の遊びをその国の言葉で体験する恒例の授業です。今回は中国、韓国、ロシア、タイ、アメリカの5か国の遊びを国際交流員や留学生に教えていただきました。ロシア式鬼ごっこ、中国式羽根けり、タイ式ロンドン橋落ちたなど、日本と共通する遊びが外国にあることを知ることができました。



ロシア版の鬼ごっこ

みんながうれしい国際協力とは

最後は、JICA国際協力推進員の杉尾智子さんによる国際協力についての授業でした。杉尾さんがNGO活動をしていたマラウイの子供たちの写真をスクリーンに映し出し、写真から想像できる現地の住民が喜ぶ国際協力プロジェクトを考えてもらいました。

子供たちは、「靴を履いていない足の裏からばい菌が入り病気になるかもしれないので、靴や薬を送ってあげたり、靴の作り方を教えてあげたりする」、「学校に行ってなさそうだから学校を作るための募金活動をする」、「服が汚れているから洗濯板や環境に優しい石鹸の作り方を教える」など、1枚の写真から様々なプロジェクトを提案しました。



写真をじっくり観察する子供たち

このように、子どもたちが楽しみながら国際理解を深めることができる催物を来年もまた企画したいと思っています。

当協会の語学ボランティアが 災害応援のため熊本に向かいました

286名の語学ボランティアが登録

当協会には、県内の国際交流を推進するため、外国語の通訳や翻訳をする語学ボランティアの登録制度があり、2016年8月末時点で286名の方が登録をしています。

この語学ボランティアに登録をするには、専用の申込用紙に必要事項を記入し提出するだけで完了し、登録後は語学ボランティアを必要とする団体又は個人からの依頼に応じて活動をしています。(申込用紙は当協会のHPからダウンロードできるようにしています)



平成27年度の語学ボランティアの活動実績

活動内容(主なもの)	言語	活動した語学ボランティアの数(延べ数)
大型客船寄港時の通訳、外国人住民向け南海トラフ地震対策講義時の通訳、友好姉妹都市来高団の歓迎レセプションにおけるテーブル通訳、カツオのたたきの作り方の説明の通訳、等	英語、中国語(普通語・台湾語)、韓国語、タガログ語	37人

ボランティアのための通訳技能研修を開催

また、個々の語学スキルの確認及びレベルアップの機会とするため、登録者を対象にした通訳又は翻訳の技能研修を年1回開催していますが、今年は2月に愛知県にある金城学院大学文学部英語英米文化学科の水野真木子教授をお迎えして、「コミュニティ通訳」をテーマに、その特徴、意義及び役割並びに通訳者としての倫理の話から通訳ロールプレイまでを3時間みっちり講義、演習していただきました。



通訳技能研修の様子(平成28年2月実施)

災害応援協定に基づき語学ボランティアを派遣

当協会では、外国人住民の南海トラフ地震対策として、多言語による防災パンフレットの作成など、これまで様々な事業を実施してきました。その一環として、災害時に対応できる語学ボランティアの養成を平成19年度から開始し(平成24年度まで継続実施)、県の内外における大規模災害発生時に活動することができるよう準備をしてきましたが、今年4月に発生した熊本地震により被災した外国人住民を支援する熊本市国際交流振興事業団の活動を支援するため、地域国際化協会相互間の災害応援協定に基づき、当協会に登録する語学ボランティア(中国語)2名を、5月4日から1泊2日の日程で現地に派遣しました。

無事活動を終了されたお2人から現地での活動の様子などについてお話を伺いましたので、この紙面を借りて簡単に報告します。

お2人の主な活動内容は翻訳と避難所の巡回で、翻訳については1人が実際に翻訳をし、もう1人がそれをチェックする流れでやったそうです。避難所巡回は、最も被害の大きかった益城町を訪れました。

避難所には大学や日本語学校の留学生がいたそうです。避難所に貼られてあるビラはどれも日本語ばかりで、「やさしい日本語」で書かれたものもあったようですが、すべてひらがな書きで、中国籍や韓国籍の漢字圏の方にはかえって分かりにくいのではないかということでした。

避難所の衛生面と高齢者対策も気になったようです。避難所では外の仮設トイレしか使えず、用を足すのが一苦労のようでした。高齢者の中には床に直接座ることが難しい方もいたようです。

1泊2日という短い活動期間に対してお2人はやや不完全燃焼のご様子でしたが、ボランティア活動だけでなくご自身の地震対策を考える上でも貴重な経験となったということです。



震災後の益城町内の風景(ボランティア撮影)



避難所の様々なビラ(ボランティア撮影)

南米高知県人会から

日本から南米への移住が始まったのは20世紀初頭に遡ります。以後、本県からも多くの方々が移住し、現在、南米では4高知県人会(サンパウロ、パラナ、パラグアイ、アルゼンチン)が活動しています。今秋、パラグアイ高知県人会四十周年記念式典への出席に合わせて、高知県訪問団が高知移住地を訪れました。今年は県内各地のミュージアムで本県の移民史を紹介する「高知の移民文化発信プロジェクト」も開催されています。南米移住者との旧交を深める年と位置づけ、南米高知県人会からいただいた県民の皆様へのメッセージを掲載します。

パラグアイ高知県人会会長 山脇 生年

República del Paraguay

パラグアイは南米のほぼ真中に位置する国で農業がおもな産業です。日本人の移住は1936年にはじまり、今年八十周年で、秋篠宮眞子様もお迎えして記念式典を行うことになっています。県人の移住は戦後からであり、それでも六十年が経ち、今は二世、三世が中心の時代です。高知県人会は、県出身者の親睦を目的に結成し、四十年になりました。これを記念して創立四十周年記念式典を開催し、母県からの訪問団の出席に感謝しています。

かえりみまずに移住以来長い年月に渡り、他の県に例をみない、厚い指導と援助を受けて来ております。なかでも子弟の母県での研修生は59名も居て、その知識と技術はこの国のためにも役立っています。又、ややもすれば薄れがちな県民意識をつなぎとめるのに役立っています。

昨今、私達の生活も安定してきました。これまでの皆様の好意に報いるのに何かできないかと思案し、アルゼンチン高知県人会とも相談して『異文化を見聞・体験する若者』を受け入れることにしています。その目的はグローバル化する社会に対応できる若者を育てる事にあります。アルゼンチンとパラグアイ両国内の移動・宿泊・案内はすべて私達で引き受けますので気軽に参加してみてください。詳細については、県の国際交流課かパラグアイ高知県人会にお問い合わせ下さい。今後こうした機会があれば情報を発信し、県民の皆様との交流を深めたいと思っています。



日系移住地(ピラポ)

パラナ高知県人会会長 吉田パウロ国広

Estado do Paraná

私が生を受けたのは終戦直前、当時日本政府が造成したパラナ州トレスバラス移住地(現アサイ市)であります。祖父母は、一家7人で安芸郡芸西西分より移住してまいりました。終戦直後から私たちは戦争に負けた国民ということで、心無い人々より侮られる日々を重ね成長しました。数十年の時が流れ、盛大に日本移民百周年記念式典が挙行された折、この国の人々は日本やその子孫のことをどう感じているのか、大勢のブラジル人に尋ねてみました。すると、日本人は非常に真面目で勤勉な働き者で、この国の発展に大きな役割を果たしたと高く評価されていることを知りました。このことは長い年月過酷な環境の中、黙々と重労働に耐えた日本移民の努力の賜物であると同時に、敗戦から奇跡の復興を遂げ、現在では開発途上国の発展に寄与し、世界に向け平和外交を発信する日本政府の姿勢が高く評価された結果であると思う次第です。同時に、寛大で親切なブラジル人の異文化を尊重し、自国の文化に取り入れ消化する国民性によるものと考えます。

私が特筆したいのは、この国における日本移民の中でもとりわけ高知県人の果たした役割とその県民性です。この国で日本移民が築き上げた南米最大の農業協同組合コチャ産業組合は下元健吉氏を中心とする高知県人により創立され、同県人中沢源一郎氏が創立したスールブラジル農業協同組合とともに、ブラジルの台所を預かると称される存在になりました。また、ブラジル最大のコーヒー生産地北パラナ州を開発した氏原彦馬氏は入植者の世話にこころをくだし、パラナ州より名誉州民権を送られた氏の功績は特筆すべきものでありましょう。長い年月ブラジルに於ける日本人移住者の苦闘の心の支えとなったのは言うまでもありません。故郷高知県人の歴史上の偉人にもみられる親切で寛容に満ちた気質は現在でも脈々と受け継がれ、私たちの誇りであり、心の拠り所であります。

現在、私どもが最も心配していることは、大きな確率で発生が予想されている南海トラフ地震です。どうか高知県の皆様には万全の防備を施され、美しい故郷を守っていただくよう念願し、私のメッセージといたします。

ブラジル高知県人会 川上カミーラ

(2015年度研修生)

高知県民の皆様、はじめまして。毎年ブラジルから県費研修生がお世話になっており、私もそのひとりで2015年度海外技術研修生の川上カミーラです。今年3月無事研修を終えて帰伯いたしました。帰伯後、ブラジル高知県人会の色々なイベントに参加させていただいております。そしてそのイベントを通じ、感じたことを書き留めたいと思います。

ブラジルには日系人以外のブラジル人と結婚し、生まれた人たちも含め、約150万人にも及ぶ日系人、混血の人たちが在住しており、世界で最も多い日系人人口を有しております。その方たちの中には農業移民で始まり、現在の日系社会では農業以外にも商工業そして医学関係又政界に出る者など、各分野で活躍しています。

去る7月には、毎年の恒例行事、県連主催の第19回日本祭りが開催されました。日本祭り会場における日本政府関連の展示スペースでは、農林水産省による日本食紹介や観光庁による訪日観光促進事業、JETROによる日本のキャラクター関連施設やアニメなどの紹介もありました。又、各県人会は郷土料理を販売し、3日間で延べ16万8000人の入場者がありました。このイベントは1997年から始まっていて、南米一大きい日本祭りです。

私たち高知県人会は、会員、婦人部、そして青年部たちが一丸となって、郷土料理の鯛の蒸し、高知名物カツオのたたき、姿寿司、その他にも桜餅、焼きそば、天ぷらなどを販売し、それぞれが役割を分担し、3日間はずっと忙しの忙しさでした。高知の郷土料理は、好評で完売。この郷土料理を一人でも多くの人たちに知ってもらい訪日される人には、ぜひ高知に足を運んでいただきたいと思います。又、高知県をアピールする一環として毎年土佐祭りも行っており、この土佐祭りも序々にではありますが、ブラジル人社会にも溶け込みつつあります。

将来研修生たちは高知で学んだいろんな知識、技術をブラジル社会の色々な分野で貢献し、高知のよさをブラジル人にアピールしていけたらと思います。現在では一世から二世、三世の世代交代の時期がきております。我々研修生も高知で学んだことを広く子孫に伝えて県人会の継続に努力していきたいと思います。



土佐祭りにて(筆者右端)

在亜高知県人会 横山 徹志

República Argentina

高知県民の皆さん、こんにちは。こちらはアルゼンチンです。皆さんはアルゼンチンをご存知ですか？

こちらでは日本の正反対に位置する為、日本が夏の時ここでは冬で、そちらが朝の時間にはこちらは夜と言うことになります。アルゼンチンと言えば有名なのが、「タンゴ」そして「恐竜の骨」等ですがその外にもイグアスの滝、パタゴニアにあるペリトモレノの氷河、見るべきものはまだまだ沢山あります。県民の皆様、ぜひ一度見にきてください。それにここアルゼンチンにも高知県人はけっこう住んでいますよ。

ここで少し当アルゼンチン高知県人会を紹介しましょう。高知県に由来する家族等で作っている親睦団体です。戸数55戸、人数は成人子供も含めて209名、ここアルゼンチンでは活発に活躍している県人会の一つでもあります。役員は、文野正輝会長を筆頭に、東野真一幹事、松尾洋志会計、外5名の役員と2名の監査役、1名の相談役で運営しております。県人会員の中でも高齢化が進んでおりまして一世はだんだん減ってきております。その反面二世、三世が増えてくれて、これから先は彼らの世代になっていく事と思います。若者達がこれからも今まで同様、自分達の意味を継いで母県である高知県との交流を大事にしてくれるものと確信しております。私達の県人会では行事として1月末もしくは2月初めに新年会及び定期総会をおこなっております。それともう一つの行事は春の親睦会もしくは一泊温泉旅行で、いずれの行事もとても好評で皆その日が来るのを楽しみにしています。この様な楽しい行事をする事によって若者達の気持ちをも取り込みたいと思っております。

それとは別に研修生として若者を県で受け入れてもらい、母県で勉強し帰国後その研修の成果を地域社会のみならず広く皆の為に役立ててもらっています。又、母県から県人会助成金として補助金もいただいております。それが県人会を運営して行く上でたいへん助かっております。有難うございます。以上、県人会及びアルゼンチンからのメッセージでした。



在亜高知県人会新年会での様子



高知商業高等学校ラオス学校建設活動の紹介

教諭 成瀬 孝治

7校の学校建設に協力

1994年、高知商業高校生徒会は、NGO組織高知ラオス会が取り組むラオス学校建設活動と出会い、ラオスとの交流を重ねてきました。現在までに、高知ラオス会を通じて7校(5小学校、1中高校、1保育園)の学校建設に協力してきました。また、毎年夏に生徒・教職員をラオスに派遣するラオス研修を実施し、通算21回、のべ234名の生徒がラオスを訪れました。

生徒たちは、ラオスからたくさんのことを学びました。学校が在る大切さ、学ぶことの楽しさ、時にはラオスの親子の姿から家族との絆を再確認するきっかけにもなりました。

これらのことから、ラオスは心豊かな国であり、ラオスと私たちは、対等平等の関係でなくてはいけないことを学びました。この学びが、ラオスで商品を仕入れ、高知で販売し、その利益で学校建設を行う模擬株式会社設立へとつながりました。

県庁へビジネスプランを提案

2014年、高知ラオス会・高知商業高校とラオスとの交流が20周年を迎えたことをきっかけに、生徒たちは学校建設や現地での交流に加え、商業高校の力をさらに生かした国際協力活動ができないう模索しはじめました。それが現在取り組むラオス・ビエンチャン県庁へのビジネスプランの提案です。ラオスは国民の約7割が農業に従事していると言われていています。その農作物を加工しお菓子を製造するプランを考えました。ヒントは高知県の芋ケンピ菓子から得ました。今年8月6日ビエンチャン県庁にて、シンカム副知事をはじめとする10数名の

県職員の方々に、生徒たちは自分たちの考えるプランをプレゼンテーションしました。すぐにお菓子を製造することにはなりませんでしたが、ビエンチャン県庁の案内のもと、ラオスのさつま芋畑やフォンソーン村のお菓子製造の視察が実現しました。これまで生徒たちは、ラオスの自立をめざし、ラオスの得意技である農作物を生かしたお菓子の製造をめざしてきました。そのことが、ラオスの利益につながると考えてきたからです。しかし、現地での聞き取り調査を経て、首都を離れたラオスの人たちは今ある暮らしを豊かだと感じ大切にしていることがわかりました。ラオスがこれからも持続的に発展していくためには、ラオスのことをさらに学び、さらに考え、対話を軸とした協働する活動にしなければいけないことに気づくラオス研修になりました。

本校生徒会と高知ラオス会が取り組む国際協力として、高知県民の方々や国際協力に携わるの方々、そしてラオスの人々に支えられ、現在も継続しています。今年ラオスで生まれた生徒たちの気づきや発見が、高知とラオスの絆を深め、未来を担う若者に成長してくれると信じています。今までお世話になった方々に感謝するとともに、これからもあらためてよろしく願いいたします。



ビエンチャン県庁でビジネスプランの提案



生徒によるプレゼンテーション



建設に協力した学校を訪問し交流

国際交流員(米国) 退任あいさつ

クレア マークス

2年間に渡る高知での生活が終わり、アメリカでの新しい冒険が始まります。

振り返ってみると、国際交流員の仕事を例えると、「いろんな帽子をかぶった2年間」と言えると思います。英語講師の地味な帽子。ミュージカルのまとめ役の大きくて派手な、お花がついている紫色の帽子。異文化の



キラメッセ室戸でジェラートを堪能

架け橋となるアメリカ親善大使のベースボールキャップ。翻訳者の無帽の、ボサボサした髪の毛。そして、かぶることで透明人間に早替わりする通訳者の帽子。それぞれの帽子は、毎日何回もかぶり替えなければならず、似合う日も似合わない日もありました。特に、通訳者の帽子のマジックはたまに効果がなくて、誤訳してしまったり、言葉を聞き取れなかったりして、周りの人に見えてしまうことがありました。(通訳は一か八かのことなので、成功しても失敗しても、その至福感と恥ずかしさが何日間も続きますね)辛いときも疲れてしまうときもありましたが、どの帽子も、かぶってみる価値があったと思います。アメリカに帰った後も、また新しい帽子をかぶることを楽しみにしています！

高知県の皆様、あつという間でしたが、この素敵な二年間、ありがとうございました。そして、またいつかお会いしましょう！



国際交流員(韓国) 着任あいさつ

안녕하세요!

ハン ジョンギョ
韓 正圭

韓国から参りました韓 正圭(ハン ジョンギョ)と申します。今年4月から県庁の国際交流課で韓国との業務を担当する国際交流員として仕事させていただいています。

大河ドラマ「龍馬伝」や小説と映画になった「県庁おもてなし課」を見て高知が大好きになった頃、高知県から新しい国際交流員を募集する知らせを見つけ、迷うことなく応募して高知に来ることになりました。龍馬が生まれた町を通り、おもてなし課の「掛水」が働いた県庁に出勤する毎朝、今でもワクワクします。

韓国の木浦市で共生園という孤児院を運営した田内千鶴子さんがきっかけとなり、高知県は全羅南道と長年にわたって交流を続けています。私の出身はソウルですが、祖父と祖母、父と母とも全羅南道のすぐ隣の全羅北道の出身なので、高知県と全羅南道との交流には深い縁を感じます。特に、今年は両地域の姉妹協定締結を控えております。私としては大事な時に大事な役割を任されたと思い、微力ながらもベストを尽くしたいと思います。

国際交流員になって日本と韓国の架け橋になりたいという最初の意気込みを忘れずに、高知県民の皆さんへの韓国の紹介や高知県と韓国との交流に向けて一生懸命に頑張りたいと思います。これからもよろしくお願ひします！



アンパンマンと一緒に



INFORMATION BOARD

世界の国々についてもっと知ろう! 異文化理解講座開催

当協会では、国際交流員や留学生を講師に迎え、外国の多様な文化や習慣などを紹介する「異文化理解講座」を毎年開催しています。7月には四講座を開催し、タイ、中国、韓国、ロシアについての文化を学びました。

次回講座は11月12日(土)安芸市、12月3日(土)四万十市での開催を予定しています。申込方法を含む詳細は、当協会HPにてご案内します。奮ってご参加下さい。

高知工科大留学生デュリヤサーツ・
ファックファンさんからタイの
お祭りについて学びました。



高知県海外技術研修員及び協力交流研修員が研修を開始しました

当協会では、高知県からの委託を受け、海外からの研修員受入業務を行っています。平成28年度は友好姉妹都市であるフィリピン・ベンゲット州から協力交流研修員1名、南米から海外技術研修員3名を受け入れています。本事業は、研修員の属する国の発展に必要な技術や知識を習得させるとともに、母国と高知県の友好親善を深めることを目的としています。

協力交流研修員は11月、海外技術研修員は来年3月まで県内の研修先で研修に励みます。技術研修にとどまらず、県内視察や学校訪問などを通して研修員と県民のみなさんが交流できる機会をもっていきたいと考えています。

研修員との交流にご興味がある学校や団体は、当協会までお問い合わせ下さい。



県文化生活部長敬訪問での記念撮影。右から山田ダニエル良一さん(ブラジル出身、株式会社土佐電子で電子工学を研修)、長野奈津美さん(パラグアイ出身、国際デザイン・ビューティカレッジでグラフィックデザインを研修)、松山ホアキンさん(アルゼンチン出身、高知開成専門学校でシステムプログラミングを研修)、タイロン キダオ ダグダグさん(フィリピン・ベンゲット州出身、高知県立牧野植物園・高知県農業技術センターで造園技術を研修)

今年も「国際ふれあい広場」を開催します!

■日時: 10月16日(日) 10:00~16:00

(※飲食販売は売切次第終了)

■会場: ひろめ市場よさこい広場

県内の国際交流関係団体が実施する国際交流活動を紹介する写真の展示や歌、踊り、飲食物の提供などを通して、県民の国際交流についての理解を深め参画の機会を提供する年に一度の恒例のイベント。今年には2年後に新図書館としてオープンする県立図書館が海外の図書の外国語による読み聞かせ、国際交流に関連する図書や外国図書の展示及び貸出を行います。

催物についての詳細は、当協会HPでご確認ください。

▶ 昨年の様子
(青年海外協力隊OBと高知ファイティングドッグスの
ラシナ選手によるトーク)

★出展団体の紹介(順不同)★

- ①奥村多喜衛協会
- ②日中友好中国帰国者の会
- ③高知大学医学部アジア・僻地医療を支援する会
- ④高知SGG善意通訳クラブ
- ⑤高知県フラ協会
- ⑥高知県青年海外協力隊OB会
- ⑦高知県文化生活部国際交流課
- ⑧高知県立図書館
- ⑨特定非営利活動法人Brain
- ⑩公益財団法人高知県国際交流協会

